

はじめに

「オールひた」で夢と希望の持てる未来を切り拓く — 日田ならではの地域力を磨き、自律したまちを創生する —

我が国の総人口が平成 20 年の 1 億 2,800 万人をピークに減少に転じる中、国及び地方が総力を挙げて「人口減少の克服」と「活力ある地域社会の形成」に取り組む「地方創生」の国家プロジェクトが動き始めました。

旧日田市郡の 1 市 2 町 3 村の合併から 10 年の節目を迎えた本市は、合併時の人口 74,165 人が平成 27 年には 66,526 人と、この 10 年間で約 7,600 人の人口減少となっております。

殊に、周辺地域においては、若年層の流出等に伴う人口減少や少子高齢化が一段と顕在化し、集落の維持や地域活力の低下等の課題への対応が急務となっております。

ここに策定する「日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、これら喫緊の課題への対応を図るべく、「ひと」を戦略の中心に据え、本市産業の担い手の確保・育成や、外から新しい風、新しい人材を呼び込む移住の促進、結婚から子育てまで切れ目のない「ひと」への支援、安全・安心で快適に暮らせる地域を創るための人材の確保・育成や新たな住民自治体制の構築など、本市で「ひと」が育ち、その「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」をつくる、または、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込むといった好循環を生み出すことを目指してまいります。

また、このたびの総合戦略は、「ひた創生」のための長期に亘る取組の第 1 歩となるもので、今後の第 6 次総合計画及び地域活性化プランの策定等の中で、地域の実態や地域資源に基づく本市及びそれぞれの地域の発展方向、目指すまちの姿などを、より明確にしていくとともに、今回、掲げた施策の実践と不断の見直しにより、実効性の高い総合戦略へと進化させていきたいと考えております。

本市は、天領の時代、九州の政治・経済の中心地として栄え、その伝統や文化、心意気は脈々と受け継がれ、市民皆様の誇りやプライドの礎となっていると思います。

価値観の転換に伴う地方回帰の現象も現れる中、咸宜園に全国から若者が集まってきたように、選ばれる魅力ある日田市となるためには、私たち一人ひとりが、人口減少や少子高齢化などに対する危機意識、当事者意識を持ち、柔軟な発想でそれぞれの立場で何ができるのかを考え、具体的な行動を起こしていくことが必要不可欠です。

平成 26 年 4 月に施行した「日田市自治基本条例」が掲げる参画と協働のもと、本市の有するあらゆる地域資源・優位性を総動員し、産業力や教育・子育て力、福祉力、交流・連携力等の日田ならではの地域力を磨き、自律したまちの創生を推進してまいりますので、引き続き、市民・議会・行政一丸となった取り組みに御協力をお願い申し上げます。

平成 28 年 2 月

日田市長 原田 啓介